2011.3.12

2011（平成23）年 3月12日

津島地区への避難

10km圏外への避難指示で大渋滞が発生

20km圏内の避難に拡大。町民は津島地区へ

3月11日の夕方から夜間にかけて、沿岸部では瓦礫の隙間や屋根の上でいくつもの助けを求める声が上がっており、町の消防団や自衛隊などが救出に当たったものの、二次災害のおそれがあるため、やむを得ず一時中断。翌12日早朝、津波被災地の安否確認を再開しました。この時、国から福島第一原子力発電所1号機の半径10km圏内の住民へ避難指示が出されていることをテレビで知り、町災害対策本部では急遽10km圏外への避難を指示しました。

町災害対策本部では津島地区への避難を決定。12日13時には、災害対策本部機能を津島支所へ移転することを決定しました。

移動の手段は、自家用車のある方は自力で、車を持っていない高齢者、ガソリンがない人は役場本庁舎に集まってもらいバスで津島支所へと移動しました。バスは町所有のバスと独自手配した民間バスの合計6台を使用しました。

役場本庁舎から津島地区まで、通常であれば車で30分程度のところ、到着まで3～4時間掛かる大渋滞が発生。こうした状況の中、15時36分には福島第一原子力発電所1号機建屋において水素爆発が発生。状況は悪化の一途を辿りました。

同日17時39分、福島第二原子力発電所から半径10km圏内の住民に避難指示、続く18時25分には、福島第一原子力発電所から半径20km圏内に避難指示が出されましたが、この時点でも町には国、福島県、東京電力のいずれからも連絡はなく、町は独自の判断で、福島第一原子力発電所から20km圏内にいる住民に避難指示を出しました。20km圏内の町民は、突如自宅や各避難所から津島地区へと移動することとなり、人口1,400人ほどの津島地区は8,000人を超える避難者であふれかえる事態となりました。

受け入れ先となった津島小学校、津島中学校の体育館などでは避難住民がひしめきあい、町災害対策本部も住民の動きを把握することは困難を極めました。避難者は井戸水や沢の水を飲んでしのぎ、また、食糧や毛布の数も足りず、横になることすら難しいほど混雑している避難所もありました。体育館が一杯になってしまったため、車中泊をする人も数多くいました。こうした中、津島地区では、個人の家庭で避難者を受け入れたところも多く、避難所に食料や寝具などを提供する姿も多く見られました。

浪江町の主な動き

津島地区に開設された避難所

1．浪江町役場津島支所	10．羽附集会所
2．津島公民館分室	11．津島集会所
3．浪江町立津島保育所	12．浪江町商工会津島支部
4．浪江町立津島小学校	13．南津島上集会所
5．浪江町立津島中学校	14．南津島下集会所
6．福島県立浪江高等学校津島校	15．手七郎集会所
7．株式会社 金門製作所	16．下津島集会所
8．長安寺	17．JAふたば津島支店
9．赤宇木集会所	18．浪江町つしま活性化センター

TOPICS

3月11日～12日、津島診療所での診療対応

震災が起きたのは、津島診療所の午後の診療が始まって間もなくのことでした。激しい揺れに、医師や看護師、事務職員７人がめいめいにカルテや薬の戸棚、機材などを押さえました。幸いなことに来院していた患者さんは怪我もなく無事でした。翌朝、着の身着のままで避難してきた町民たちは、持病の薬を求めて診療所を訪れ、診療所前から敷地内、道路にまで長蛇の列ができました。15畳ほどの待合室は人であふれ、町内から医師４～５人、津島在住の看護師５～６人が駆けつけて対応しました。薬の処方は、普段であれば数十人のところ、このときは何百人にもなり、休む間もないほどの対応となりました。病状や症状を聞いても、普段処方されている薬までは分かりません。やがて薬の在庫が尽き、電話も通じない状況の中、役場職員が福島市まで薬を直接取りに行くなどの対応もありました。

（浪江のこころ通信／当時、津島診療所に勤務されていた看護師の体験談より抜粋）

県立浪江高等学校津島校での避難の様子

2011（平成23）年

【3月12日】

早　朝　津波被災地の安否確認へ

6：07　災害対策本部会議
10km圏外への避難について協議

8：02　移動バス借用を依頼

8：40　移動バス３台で各避難所から
10km圏外の避難所へ移動

11：10　災害対応職員を除き、
ほぼ10km圏外へ移動完了

13：00　災害対策本部会議
（津島支所へ災害対策本部移転決定）

18：00　馬場町長、津島支所に到着
災害対策本部を津島支所へ移転完了

18：10　災害対策本部会議
（津島地区の避難所の状況について）

18：25　テレビ報道から指示の拡大を知り、
昼曽根地区から以東に避難している
住民へ避難指示。町バス、自衛隊等
により避難住民を津島地区へ移動
（浪江町は避難指示未確認）

2011.3.13-15

2011（平成23）年 3月13日～15日

津島地区から二本松へ再避難

原発事故と情報不足による混乱がさらに加速

3月15日、浪江町全域に避難指示を発令

3月13日、東日本大震災の余震と見られる地震が相次ぎ、福島県内では震度1以上を19回観測。これに追い打ちをかけるように、テレビでは福島第一原子力発電所3号機の危険な状況を伝えていました。福島県は、福島第一原子力発電所周辺に住む一般住民の被ばくの可能性を発表。原発事故の状況や放射線に関する情報が不十分で、避難所に身を寄せた人たちからも情報を求める声が相次ぎました。

津島地区の町災害対策本部では20km圏外の避難状況について確認、自衛隊に避難者支援の要請を出しました。このとき、固定電話は一切使用できず、無線もない状況。通信手段は時折つながる携帯電話だけで、テレビのみが情報源という状況が続きました。

事態が急展開を見せたのは、14日11時1分に起きた福島第一原子力発電所3号機の水素爆発でした。灰褐色の煙が上空300ｍまで上昇し、原子炉建屋は骨組みだけの姿をさらし、破壊力の大きさを伝えました。「一刻も早く避難すべきではないのか」という町民の声が相次ぐ中、町災害対策本部では、津島地区からの再避難について協議を行いました。

15日の早朝、福島第一原子力発電所2号機の圧力制御室付近で爆発音が発生。4号機建屋での水素爆発によって大気中に放射性物質が大量拡散しました。これらの度重なる原発事故と情報不足による混乱を受けて、町は二本松市に町民の受け入れを要請、承諾を得るかたちで、同日午前10時には、20km圏外も含め浪江町全域に避難指示を決定。行政区長との合同会議を開催し、二本松市へ避難を開始しました。津島地区からの避難は、バスによるピストン輸送を行いました。

新たな町災害対策本部は、二本松市の支援により、二本松市役所東和支所に設けるとともに、東和地区8カ所、岩代地区1カ所、二本松地区6カ所の避難所を設け、約4,700人を避難誘導しました。区長、消防団の協力を得て津島地区への広報を行いましたが、会津地方や県外などに避難する町民もいました。また、津島地区には肥育農家があり、家畜の世話などを理由に留まることを希望する人もいましたが、町では支所に職員8人を待機させ、避難の説得に当たりました。

この日、15日11時には、国より福島第一原子力発電所から半径20km～30km圏の住民に屋内退避指示

二本松市に開設された避難所

1．東和第一体育館	9．岩代第二体育館
2．東和生きがいセンター	10．あだたら体育館
3．東和文化センター	11．石井体育館
4．旧針道小学校・体育館	12．大平体育館
5．木幡住民センター・体育館	13．岳下体育館
6．太田住民センター、旧下太田小学校、旧下太田小体育館、太田幼稚園遊戯室	14．岳下住民センター
7．戸沢住民センター・体育館	15．杉田体育館
8．新殿体育館	16．二本松住民センター体育館
	17．ウッディハウスとうわ

※上記の他、福島市、郡山市、川俣町などにも職員が常駐する避難所が開設され、地域住民による炊き出しなどが行われました。

TOPICS

3月13日～15日にかけての津島地区の様子

津島地区で避難所として指定されたのは、津島小学校、津島中学校、浪江高校津島校、つしま活性化センター、下津島集会所、旧公民館、南津島上集会所、農協など。スーパーの商品、スタンドのガソリン・灯油はすべて売り切れる。地震のため、濁った井戸水がなかなか澄まない。13日夜20時過ぎ、役場支所前で大量の荷物を路上に投げ降ろす音。役場の行政資料か救援物資の搬入だろうか。自衛隊の車両も多く見かけた。

15日午前10時、津島支所２階広間で町災害対策本部会議（区長会）が開かれ、馬場町長から30km圏内の避難指示が出される。避難先は二本松市。地区内50戸にチラシを配付し、避難を呼びかける。地域住民は、それぞれに親戚、友人を頼りに避難を開始。いずれ再会できることと、それまでの無事を祈る。

（下津島在住、元県庁職員による震災の手記より抜粋）

が出されました。町の広域避難にあたっては、以前から策定していた地域防災計画（原子力災害対策編）や避難計画の想定を超える規模の複合災害であったため、町としては、その時の状況に合わせた独自の対応を取らざるを得ませんでした。

二本松市旧針道小学校でのボランティアの様子

2011（平成23）年

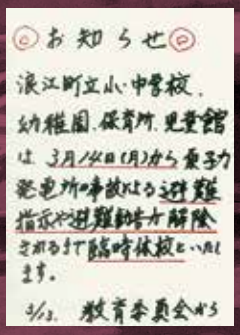
【3月13日】

4：00 ▼ 災害対策本部会議（20km圏外への避難状況について協議）

9：00 ▼ 自衛隊に避難者支援の要請

13：25 ▼ 防災行政無線にて臨時休校のお知らせ（津島地区）

20：02 ▼ ひまわり荘西側で火災発生、ヨシダ電子へ自主避難



教育委員会より出された臨時休校のお知らせ

【3月14日】

0：00 ▼ 津島よりバス２台でひまわり荘入所者の救助へ向かう

【3月15日】

4：30 ▼ 災害対策本部会議（二本松市への避難決定）

7：30 ▼ 馬場町長、二本松市長へ受入要請、承諾を得る

10：00 ▼ 災害対策本部・避難所・行政区長合同会議

13：00 ▼ 自家用車で自主避難開始、バス等（町手配）で順次移動（二本松市役所東和支所に災害対策本部を設置。東和地区に８カ所、岩代地区に１カ所、二本松地区に６カ所の避難所を開設）

21：00 ▼ 自衛隊の協力により㈱金門製作所から災害用毛布を二本松市内の避難所へ移送（～翌４：00）